

調査研究彙報

建造物研究室

春日大社未指定建造物の調査 春日顕彰会より国指定重要文化財建造物以外の摂社、末社および移殿についての調査依頼を受け、奈良県文化財保存事務所と共同で調査を実施した。調査対象は榎本・三十八所・紀伊・祓戸・水谷・金龍神社の社殿で、それらについての実測・写真撮影を行った。また、社蔵文書のうち造営関係文書の目録と写真複製を作成した。次年度に移殿の分布調査と報告書刊行の予定である。(宮本)

金剛輪寺庭園の実測調査 滋賀県教育委員会の依頼をうけて、近江八幡市に所在する金剛輪寺明壽院庭園の実測を行った。面積 8,400 m²。100分の1の図面作成。'85年3月。

(安原・田中・高瀬・光谷・内田)

歴史研究室

興福寺典籍古文書の調査 昨年度にひきつづき、同寺所蔵の古文書・聖教函のうち第64・69・70・72・73函の調書作成をすすめ、同時に第3函にたちもどって調書の点検を行いつつ興福寺文書典籍書目録の原稿を作成した。調査は5, 6, 9, 10, 11月, 1985年2月の計6回にわたって行った。(鬼頭, 他)

法隆寺典籍古文書の調査 昭和資財帳作成の一環として記録古文書の調査を、奈良国立博物館と共同で行った。今年度は甲1函から乙6函までの調書作成および写真撮影を終了した。内容は室町時代の記録から江戸時代の文書類を含んでおり、法隆寺の歴史を明らかにするうえで貴重であることがわかった。(鬼頭, 他)

法隆寺百万塔陀羅尼の調査 陀羅尼経3,000余点のうち、一応1,800点について、経典及び版式による分類、法量等の調査を終了した。なお、1984年度末に陀羅尼経2,000点ほどが、あらたに発見されたので、その追加分についても調査をはじめた。あわせて、マイクロフィルムによる台帳登録、写真撮影を行った。(鬼頭, 他)

薬師寺典籍古文書の調査 東京大学史料編纂所との第5回共同調査である。前回にひきつづき、第10, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 19, 20函について調査を行い、うち第10, 15, 17, 19函は調書作成を完了した。また第13, 15, 20函について写真撮影を行った。内容は近世文書が中心である。'84年7月。(鬼頭・綾村・佐藤・寺崎)

仁和寺典籍古文書の調査 従来 of 調査にひきつづいて、御経蔵第151函および江戸時代の記録類(仁和寺日記・年貢納帳・執達所日記・諸通帳等)の調書作成を行った。'85年3月。

(鬼頭・加藤・綾村・佐藤・寺崎)

その他の調査 石山寺(7~8月, 12月)(加藤・綾村・佐藤)、醍醐寺(8月)(鬼頭・綾村)、東京大学史料編纂所島津家文書の調査を行った。

平城宮跡発掘調査部

神野向遺跡の発掘調査 常陸国鹿島郡衙推定地の第4次調査である。今回は倉院の北東約100mで、郡庁正殿と前殿、及びこれを囲む回廊・柵を検出した。大きくは3回の建替えがある。開始時期は8世紀、廃絶時期は10世紀後半と考えられる。郡庁域の規模は東西約53m、南北51～52mである。茨城県鹿島町所在。'84年9月～'85年3月。(毛利光・松村)

横滝山廃寺の発掘調査(第4次) 第3次調査で発見した建物の全体像を把握するために、今回は台地中央部で発掘調査を行った。東西約12m、南北約10mの金堂と推定される仏堂基壇を確認した。基壇の外装は木造で、四辺ともにその痕跡をのこしていた。新潟県寺泊町所在。'84年8月。(上野)

彦根城二の丸御殿跡の発掘調査 昨年度に続いて滋賀県彦根市教育委員会が実施した彦根市博物館建設のための事前発掘調査を指導した。予定地は国の特別史跡に指定されているため、博物館は二の丸御殿の復原を主眼に構想され、ほぼ敷地全域の調査を行なって、元和年間創立以来の御殿の全容が明らかとなった。遺構の保存状況は良好でとくに池庭は石組みが残存し、移築現存する能舞台の旧位置も明らかになり、復原する予定である。工事は地下遺構に影響のない工法を採り盛土整地のうえ、1984年11月より着工。(宮本)

横須賀城跡の整備基本計画作成 静岡県大須賀町の依頼により横須賀城跡の整備基本計画書を作成した。計画はまず廃城時における城の地割りを復原する作業を行い、これをもとに現況をふまえながら整備のあり方を考えた。『史跡・横須賀城跡(復原と環境整備のための基本計画)』として報告書作成。'84年4月～'85年3月。(田中・高瀬・本中)

史跡篠山城二の丸の発掘調査・整備計画指導 篠山城二の丸は1981年度から発掘調査を続けているが、1984年度は南端部の発掘調査を行い、内向きの御殿にともなう庭園築山・堀・溝などを検出し、二の丸のほぼ全域の調査を終了した。発掘調査とともにその成果と古図などにもとづき、二の丸保存整備の基本計画の作成を指導した。兵庫県篠山町所在。(岡田・安原・田中)

宝塚古墳環境整備 三重県松阪市教育委員会の依頼により、国指定史跡宝塚古墳の環境整備基本計画の指導を行った。全域が未調査であるため、現状には手を加えず、墳丘の形状を視覚的に捕えることができるよう樹林の疎林状抜開を主眼とし、若干の盛土整形と園路、便益施設の敷設を計画案に盛りこんだ。次年度は基本計画の指導に入る予定。(田中・本中)

建物復原に際しての材料工法の検討 平城宮跡整備の一方法として大規模建築(例えば朱雀門)を復原建設しようとした場合の材料と工法に関わる問題を文化庁の依頼を受けて1980年度以降検討を加えてきた。本年度はおもに重層建築における下層軸部の補強と遺跡保護と建物の軽量化をはかるための基礎工法との二点につき検討した。(細見)

ユッカ・ヨキレート氏の招請 1984年11月にユッカ・ヨキレート氏を学術振興会の援助を得て招請した。氏は、ICCROM(ローマ文化財修復国際センター)で建造物保存・修復コースの主任を務めている。今回は初めての来日で20日間滞在し、その間日本の歴史的建造物や町並を訪れ、そ

の保存についてヨーロッパでの事例を比較して、相異点を指摘した。日本の今後の文化財保存についての多くの示唆を得た。(上野)

埋蔵文化財センター

青谷遺跡の発掘調査 東西 20.9 m, 南北 12.9 m の基壇規模を有する東西棟建物, この北と西側にL字形に配された廊状の礎石建物 2 棟, 中心殿舎と廊状建物とを結ぶ礎敷舗道・築地状施設, 掘立柱建物などを検出した。礎石建物はいずれも瓦葺きで, 軒瓦の大半は河内国分寺と同範である。中心殿舎とみられる東西棟礎石建物の雨落溝の側壁には埴を使用している。この遺跡は従来, 寺跡とされていたが, 建物配置や変遷などの状況から, 「竹原井行宮」説も有力である。大阪府柏原市所在。'84年9月~10月。(山本・山中)

松本城二の丸跡の整備 1979年から継続してきたこの事業も6年目の今年度で全てを終了した。発掘調査の成果と古図から復原した御殿跡の復元的整備, 濠側の石垣・土坡の修理と復原, 明治時代に濠を埋めて造った旧裁判所前の土橋撤去, 唯一の江戸時代遺構である土蔵の修理などが終わった。調査整備一体の報告書も刊行され, 城郭跡保存整備の見本を示すことになった。長野県松本市所在。(安原・宮本)

森將軍塚古墳の整備 今年度は葺石復原の実施設計の最終検討を終え, 1980年事業開始以来5年目にしてようやく墳丘復原工事の着工をみた。墳丘(特に後円部)の平面がいびつなため, 設計が難航し, 現場の遣方で補正しながら後円部東側の一部の葺石復原が施工された。長野県更埴市所在。(安原・木下)

故山内清男博士収集資料の整理 1970年に逝去された博士の収集資料のうち, 茨城県那珂湊市海門町1-5, 菊地氏宅に保管されていた土器・石器などの考古資料, ならびに図書・雑誌・地形図などの文献資料を, 御遺族の承諾に基づき, 1984年5月24・25の両日, 本庁舎3階大会議室に移動した。考古資料はリング函393個, 木製平箱1,052個, ダンボール函20個にあり, 文献資料は, 木製キャビネット32個, 地図ケース4個, ダンボール函3個に詰められていた。到着後, 考古資料は具体的な整理作業に入る前の状況写真を, ライカ版2,600コマに撮影し, 文献資料は, 84年度末までに, 図書3,503冊(和漢書2,944冊, 欧文書599冊)の分類整理を遂行した。なお, センター研修用実測資料として, 石器の一部を活用した。(松沢・岩本次)